プレスリリース

インベスコ　ファクター投資家の動向や課題に関する調査結果を発表

グローバル投資家はバリュー・ファクターへの信頼を維持しながら、債券投資や ESG 投資におけるファクターの活用を進める

当資料は、インベスコ・グループが 2020 年 10 月 19 日に発表したプレスリリースの日本語抄訳版であり、当資料の内容および解釈については原文（英語）が優先されます。

- **アジア太平洋地域においては、回答者の 44%がファクター投資の配分の引き上げを検討、または半分以上が配分を維持するとする一方、グローバル全体では、ほぼすべての回答者が配分の維持または引き上げを予定していると回答**
- **低調なパフォーマンスが続くものの、投資家はファクターとしてのバリューに信頼を置いており、アジア地域の回答者の 76%が、依然としてバリュー・ファクターは長期的な視点から有効であると回答**
- **回答者の 5 分の 2（40%）が、現在、債券運用にファクター戦略を取り入れており、ほぼ全ての回答者が、債券運用においてファクターの考え方を適用することが出来ると回答**
- **大部分の機関投資家はファクター投資に ETF を利用しており、ファクター投資を行うポートフォリオに占める ETF 投資の割合は平均で 14%に**
- **北米と比較し、アジア太平洋地域の投資家は、より多くが ESG に関するポリシーを保有するが、欧州には遅れをとる傾向に**

2020 年 10 月 19 日 － インベスコは本日、「**インベスコ・グローバル・ファクター・インベスティング・スタディ 2020**」を発表しました。当調査は、世界のファクター投資家の動向や課題に関する分析を提供するもので、今年で第 5 回目となります。今回の調査では、回答した投資家の 97%が、今後 12 ヶ月間でファクター投資への資産配分を維持、または引き上げる計画であることが明らかとなりました。アジア太平洋地域では、回答者の半分以上である 54%が、同期間に、既存の配分を維持するとする一方で、回答者の 44%が配分を引き上げる予定としています。

今回の調査では、2020 年 4 月から 5 月の間に、合計 25 兆米ドルを超える資産運用を担う 138 の機関投資家と、100 のリテール部門の投資家を対象にインタビューを実施しました。

今回の調査期間において、世界の株式市場では、モメンタム、クオリティ、低ボラティリティの各ファクターによる運用が、市場をアウトパフォームしました。対照的に、バリュー・ファクターと小型株・ファクターはアンダーパフォームしました。債務と流動性への懸念は、特に小型株およびバリュー・ファクターの足かせとなりました。

機関投資家の 65%、リテール部門のファクター投資家の 67%が、調査を実施した過去 12 ヶ月間において、ファクター・アロケーションによるパフォーマンスは、期待通り、あるいは期待以上であったと回答しています。

またバリュー・ファクターにおいて低調なパフォーマンスが続いているにも関わらず、ほとんどの投資家が、これは一時的なものと考え、引き続きバリュー・ファクターへコミットしていることが分かりました。アジア太平洋地域の投資家の 68%がバリュー・ファクターは長期的にはアウトパフォームすると回答し、76%がバリュー・ファクターの長期的な有効性を信じていると回答しています。この数字は、EMEA の投資家の 63%を上回りましたが、北米の投資家の 87%は下回る結果となっています。

インベスコのファクター・インベスティングのグローバル・ディレクターであるスティーブン・クォンスは、次のように述べています。「現在のグローバル・マーケット環境では、古典的なバリュー・ファクターは、引き続き、逆風下にあります。現在の COVID-

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長(金商)第 306 号
加入協会　一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

〒106-6114
東京都港区六本木六丁目 10 番 1 号
六本木ヒルズ森タワー　14 階
Telephone 03-6447-3000

19 の影響を含む全景気サイクルを通じて、リスク調整後の好パフォーマンスを得るには、様々なファクター戦略を取り入れることが有効です。投資家は、厳格で規律正しいアプローチにより、ポートフォリオ構築の主たる要因となるファクター戦略を見直しています。」

投資家の債券運用におけるファクター採用の注目度は、ますます高まる傾向に

今回の調査では、債券投資にファクター戦略を適用する機関投資家やリテール部門のファクター投資家は、過去最多となりました。回答者の 40%が債券運用にファクター戦略を採用しており、また 3 分の 1 以上が積極的な採用を検討していると回答しています。ファクター戦略の採用を検討していないと回答した機関投資家は、回答者のわずか 17%にとどまりました。

ファクター戦略が債券運用にも適用できると考える投資家は、2018 年の 59%から足元で 95%まで増加しており、これが投資家の共通した認識になりつつあることが分かります。調査によると、投資家は、債券運用はファクター・ベースのアプローチに適していると考えており、63%が債券ファクターは株式ファクターと同様に重要であるとの見解を示しています。

アジア太平洋地域の投資家がファクター戦略を適用している債券プロダクト別の割合は、投資適格社債（63%）、ハイ・イールド社債（54%）、そして最も割合が高いのは国債（71%）となっています。システマティック・ファクター戦略が機能するためには最低限の取引量が必要であり、一部のアジア太平洋地域の債券の流動性の水準は、ファクター戦略の採用にとって、引き続き、課題となっています。

スティーブン・クォンスは次のようにコメントしています。「アジア太平洋地域における債券市場の更なる国際化が進む中で、グローバルな投資家が債券投資にファクター戦略を採用し始めたことは注目に値します。特に、中国のオンショア市場は世界第 2 位の債券市場に拡大しており、同市場の国際化は、市場の流動性を高め、また債券運用者が同地域の投資家のニーズを満たすために、より多くの債券ファクター戦略を提供するきっかけとなるだろうと見ています」

投資家はファクター・ベースの ETF への切り替えを継続

過去 12 ヶ月間で、機関投資家とリテール部門の投資家の双方で、ファクターETF の採用が増加しています。現在では大部分の機関投資家が ETF を利用し、その割合はファクター・ポートフォリオ全体の平均 14%を占めています。リテール部門の投資家においては、3 分の 2 以上が ETF を採用し、その割合はファクター・ポートフォリオ全体の半分を占めています。地域別でみると、何らかの形で ETF を利用している投資家の割合は、アジア太平洋地域は 63%、EMEA では 45%、北米では 77%となっています。

パッシブ・インデックス戦略を中心にしながらファクター戦略を採用している投資家にとって、ETF は使いやすさとフィー水準の面で特に評価されています。「エンハンスト」あるいは「スマートベータ」という考え方を採用する投資家は、市場加重配分よりもリスク・リターンの目標を実現することができる、透明性の高いルールに基づいた商品に魅力を感じている、と述べています。

アクティブなファクター戦略を実行するためにも、ETF がますます利用されています。過去には、投資銀行経由でのスワップ取引やその他のデリバティブを通じてファクター投資を行った投資家の話も聞きましたが、デリバティブを利用した商品には不透明であるとの懸念があり、これらに比べて透明性が高い ETF が好まれるようになってきています。アジア太平洋地域の投資家の 69%は、ファクター戦略のために ETF を利用する最大の理由は、その流動性であると回答しています。

ファクター投資と ESG

従前より、ファクターの採用は ESG の採用と並行して行われることが多く、2020 年においてもこの傾向は依然として顕著に見られました。84%の機関投資家と 71%のリテール部門の投資家が ESG を採用している中で、すでに全体の半数以上の投資家が ESG をファクター・ポートフォリオに組み込んでいるか、取り入れることを検討しています。

アジア太平洋地域では、79%の投資家が ESG を採用していると回答し、これは北米の 76%より高く、欧州の 82%より低いものでした。アジア太平洋地域の投資家にとって、ESG を運用に取り入れるかどうかは、その投資効果によって判断されることが多く、79%がリスク面での効果を、54%がリターン面での改善を期待する、と回答しています。また、外部

からの圧力が高まっているという証言の通り、72%が ESG を組み入れる動機としてステークホルダーからの要求を挙げています。

ESG 投資とファクター投資は一般的に異なるものですが、両者はしばしば補完的であると見なされ、アジア太平洋地域の投資家の 60%は ESG はファクター投資に役立つとみています。こうした利点は幅広く認識されており、アジア太平洋地域の投資家からは、優れたリスク管理（91%）と ESG に関連するリターンの押し上げの可能性（74%）を期待する声が多く聞かれます。

スティーブン・クォンスは次のようにコメントしています。「ESG の採用は、アジア以外の地域でより広く行われているものの、アジアにおいてもその動きは活発であり、関心も急速に高まっています。ESG とファクター投資の両者とも、定量的な情報をシステマティックに使用して分散されたポートフォリオを構築するものであり、ファクター投資の考えはこれを自然に満たすものです」

以上

インベスコ グローバル・ファクター・インベスティング・スタディ 2020 の全文は下記サイトから御覧いただけます。
http://inves.co/factor_study（英文のみ）

注記：サンプルと調査方法について
本調査に関するフィールドワークはNMGのストラテジー・コンサルティングが実施しました。高品質の調査結果を得るため、調査に当たってインベスコはNMGを専門的な独立起業として契約しました。本調査の手法の主要要素な次の通りです。

- 調査対象内での主な意思決定者を抽出し、金銭的報酬ではなく市場情報の提供をベースに経験豊かなコンサルタントによるインタビューを実施。
- 定量および定性分析が収集出来るよう、体系的にまとめた質問事項を使って綿密な面談（通常は1時間）を実施。
- グローバル資産運用セクターでのコンサルティング経験を持つNMGのストラテジー・チームによる結果を分析。

第 5 回目を迎えた 2020 年は、年金基金、保険会社、ソブリン投資家、運用コンサルタント、富裕層向け資産運用コンサルタント、プライベートバンクを含む計 238 名にビデオ会議、または電話を通じてインタビューを実施しました。（2020 年 3 月末時点の運用資産残高の合計は 25.4 兆米ドル超。）今回の調査の回答者は全て、ポートフォリオ内でファクター投資を採用していると回答した「ファクター採用者」です。我々は、意図的に多様な市場から、規模が大きく経験豊富な投資家を対象にしています。

当資料に記載されている全てのデータは、記載がない限り 2020 年 9 月 30 日時点。

インベスコについて

インベスコは、「素晴らしい投資体験を通じて、人々の人生をより豊かなものにする」ことを会社の存在意義として掲げ、グローバルな運用力を提供する世界有数の独立系資産運用会社です。インベスコは、グローバル市場で培った特色ある運用力を強みとするブランドを傘下に収め、世界中の個人投資家、機関投資家などの顧客の資産運用ニーズに対し、グループの総合力を結集して包括的な解決策を提供しています。インベスコは、世界 25 ヵ国以上に拠点を置き、ニューヨーク証券取引所に上場しています（証券コード：IVZ）。インベスコに関する詳しい情報は、ウェブサイト www.invesco.com（英語）で入手することができます。

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社について

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社は、「素晴らしい投資体験を通じて、人々の人生をより豊かなものにする」ことを会社の存在意義として掲げ、グローバルな運用力を提供する世界有数の独立系資産運用会社インベスコ・リミテッドの日本拠点です。インベスコ・アセット・マネジメント株式会社は、内外の公的年金・企業年金、事業法人、銀行や保険会社など機関投資家を対象に、株式や債券などの伝統的な投資戦略からオルタナティブなど非伝統的な投資戦略まで幅広い商品およびサービスを提供しています。また、銀行・証券会社・保険会社などを通じて個人投資家向けの投資信託およびサービスを提供しています。インベスコ・アセット・マネジメント株式会社に関する詳しい情報は、ウェブサイト www.invesco.co.jp で入手することができます。

その他の留意事項

当資料はインベスコ・アセット・マネジメント株式会社が、インベスコが作成した英文資料を抄訳し、情報提供を目的として作成したプレスリリースであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。抄訳には正確を期していますが、必ずしも完全性を当社が保証するものではありません。また、抄訳の場合には、原資料の趣旨を必ずしもすべて反映した内容になっていない場合があります。当資料は信頼できる情報に基づいて作成されたものですが、その情報の確実性あるいは完結性を表明するものではありません。また、当資料に示す見解は、インベスコの他の運用チームの見解と異なる場合があります。